

第4回（3月） 会議録（主な意見）

○地域・社会教育関係団体が求めているのは青壮年だけではなく中学生、高校生である。中・高校生にどのように地域づくりへの参加を奨励していくのかも大切である。

○中・高校生の地域づくりへの参画の状況については、地域によって実情が違う。能登や加賀に行けば高校は地域に密着した活動をやっているが、金沢では難しい。それは、金沢市内の高校生には地元意識があまりないことに起因するのではないか。

○まとめでは、幅広く「若い世代」となっているが、若い世代をもう少し絞るという意味で、「行政が若い世代（中・高校生を含む）に働きかけ・・・」という表現ではどうか。

○他団体との連携・協働の促進では、行政のコーディネートが重要である。それぞれの団体が話し合うだけでなく、市町の行政が関わってコーディネートしていくという方向で課題を整理していくことが大切だと思う。

○指導・助言とは、サポート&ノーコントロールともいう。サポートはするが、コントロールはしない。放置・放任ではなく、良い調整役、適切な社会教育的な指導・助言を前提とした中でのコーディネートということになる。

○地域学校協働活動推進本部や協議会ができてから、育友会と公民館・地域との関係は深まってきた。しかし、地域の人が幅広く育友会に入っていけるかという点も難しい面もあり、公民館が仲立ちしなくてはならないと考えている。行政・教育委員会に音頭を取ってもらえると、連携はさらに深まると思っている。

○自分の社会教育関係団体だけではなく、NPO、市民団体とも手をつなぎ合い、少しでも地域課題の解決、改善に取り組んでいこうと呼びかけることは大切であると思う。

○県社会教育委員連絡協議会の会長を務めさせていただいているが、社会教育委員のなかには、自分たちの役割について悩んでいる方がたくさんおり、研修会等を実施している。社会教育委員以外の方となると、社会教育委員が何を行っているのかを認識していない現状があるので、もっと前へ出るべきではないかと思っている。

○現在、3市町がまとめにもある社会教育関係団体の活性化等について次年度以後検討していくということなので、私も関係している加賀市や小松市でも働きかけていきたい。こうしたまとめを通じて、社会教育関係団体だけではなく、これに関わる可能性を有している社会教育委員もどうすればよいか、振り返りの材料として活かされればよいと思う。市町ごとに状況は異なっているので、一律に当てはめるのではなく、市町ごとに協議を進めてほしい。

○一度この議論を市町の社会教育委員の間でも行ってほしいと考えている。県レベルだけではなく、各々の市町の社会教育委員の皆様が議論を始め、そこに地域の社会教育関係団体の方やNPOの方などが加わり、さらに幅広く議論を交わしてくれればよいと思う。このまとめがそのきっかけになればと考えており、今、市町に働きかけをしているところである。